魅力再発見！ わが町の伝統文化

彦一こま

置き物のように見えて実はこま。彦一どんの"とんち"に負けないユニークな細工がぎっしり

熊本県に伝わる民話「彦一とんち話」は、知恵者の彦一どんがさまざまな相手をとんちで負かす軽妙な物語で、多くの人に親しまれています。その中でも特に有名なのが、「人を騙すタヌキも、彦一が相手だと手も足も出なかった」という小話です。この話に登場するタヌキをモチーフにした創作民芸品が「彦一こま」です。

彦一こまは熊本県八代郡氷川町の郷土玩具で、昭和22年に誕生しました。すべてが手作りで、見た目は人形ですが、分解することで各部品がこまとして遊べる仕組みが特徴です。頭、胴、傘、尾、台を分けることで4つのこまとして楽しめます。

彦一こまのはじまりは、昭和初期に井芹勉さんがスイカやトマトなどの小さな野菜をモチーフに手回しこまを作り始めたことに遡ります。その技術を息子の井芹眞彦さんが受け継ぎ、現在も大事に作り続けています。今ではタヌキ以外にも、おてもやんや亀、野菜や果物など、さまざまなモチーフのこまが制作されています。

九州の各地域には、福岡県のしょうぜんどんや大分県の吉四六さんなど、それぞれ親しまれているとんち話があり、今も地元の人々に愛されています。これからも、こうした民話を通じて九州の魅力をお伝えしていければと思います。

彦一が
ある朝、畑の見廻りに行って
みると、自分の畑に石コロを一パイ
投げこんである。これを見た彦一「これは有
難い。石肥三年といって三年は肥料を施らんで
もよい。馬糞はクソヤケと言って畑がやける。馬糞
でなくてよかった。」と繰り返し繰り返しわざと声を
出して喜んで帰った。ところが翌朝其の畑に行って
みると、石ころは全部拾い上げ、其の代わり馬糞を
一パイ施してある。彦一曰く、「困った困った、折角
石コロを入れて貰って喜んでいたら馬糞と入れ
かえてある。多分狸の仕業だろう。困った
ことをしてくれた。」とわざと困った
様子をして帰ったという。

代表的なタヌキこま

取材協力

熊本県氷川町 宮原振興局
地域振興課 地域振興係

氷川町宮原振興局周辺では、国有形文化財に登録された氷川町まちつくり酒屋でコーヒー等を楽しめるほか、ソフトバンクホークス等で活躍された秋山幸二ギャラリーがありますので、ぜひ氷川町へお越しください。

〒869-4608
熊本県八代郡氷川町宮原栄久69番地1
TEL 0965-62-2311（宮原振興局代表電話）
FAX 0965-62-4116
URL https://www.town.hikawa.kumamoto.jp/